

仕様書

品 名	X線TV装置	
台 数	一式	
構 成	1 X線透視撮影台 2 近接操作卓 3 高電圧発生装置 4 X線管装置 5 X線可動絞り 6 X線検出器 7 画像収集及び画像処理機能 8 周辺機器との接続など 9 透視録画システム 10 付属品など 11 その他	
仕 様	別紙のとおり	
納入場所	〒362-0806 埼玉県北足立郡伊奈町大字小室780 地方独立行政法人 埼玉県立病院機構 埼玉県立がんセンター（以下機構とする）1階 X線TV室	
納入期限	令和8年3月13日（金）	
納入条件	1	本調達の購入物品に関する性能や技術等は、別紙要件に示す通りである。
	2	別紙要件に記した性能と技術等は必須条件であり、満たさないものは入札の対象外となる。
	3	本調達物品は、機構が指定する場所に設置すること。
	4	対象の機器は医薬品医療機器法で承認されていること。
	5	設置に当たり、機構が予め用意した一次設備以外に必要な電源設備、給排水設備等あれば受注者において用意すること。また、その経費は受注者の負担とすること。
	6	納入から1年以内に発生する本調達品のすべての故障・不具合は、無償で対応すること。ただし、メーカー保証が1年以上ある場合にはその期間とする。
	7	機構既存の設備以外に必要な電源設備工事等があれば受注者において行うこと。また、その経費は受注者の負担とする。
	8	本調達物品の搬入、据付、配管、配線、調整、接続及び設置工事に要する経費は、受注者の負担とすること。
	9	現有装置の撤去に係る経費は、受注者の負担とすること。
	10	搬入に際し発生した梱包材、不用品等は持ち帰ること。
	11	物品の撤去、搬入、据付、配管、配線、調整、接続及び設置工事については、機構の診療業務に支障をきたさないよう機構職員の指示に従うこと。
	12	設置工事は落札後、速やかに機構の職員と打合せの上、納期、搬入、設置計画、施工図面、工程表を作成を提出すること。また、そのスケジュールに従い納入期限までに完了すること。
	13	地震時の耐震対策として、機器の転倒、移動などを防止するための処置を施すこと。

14	仕様書記載のとおりなされているか否かを判断するため、装置の引渡し前に機構が受入れ確認を行うので、受注者はこれに協力すること。
15	納品する際は、装置間で適合する最新のハード及びソフトウェアのものを納品すること。
16	本システムのDICOM規格による通信機能を有する全ての装置・機器について、最新のDICOM規格による通信機能に対するコンFORMANCE・ステートメント(適合性宣言書)を提出すること。
17	作業従事者に対して、立入制限区域、事故・異変等の緊急時の対応、患者・職員等への接遇について十分指導すること。
18	事故・問題が発生した場合は機構へ速やかに報告し対応すること。
19	夜間及び休日も含め、障害発生時の連絡体制を整えること。
20	撤去・搬入・据付の際に建物、施設、設備等に損害を与えないよう、必要な措置を講ずること。なお、損害を与えた場合は原状復旧を行うこと。
21	医療法に係る届出書類一式を作成すること。必要な測定や調査は受注者が行うこと。
22	稼動に当たり、機構職員と協議して基本的な撮影プロトコルの作成に協力すること。
23	操作説明員を5日間派遣し、装置の取扱い及び安全管理についての説明を行うこと。
24	各種マニュアルを提供すること。
25	操作マニュアルに関しては日本語版も提供すること。
26	本仕様書の内容に疑義が生じたときは、双方誠意をもって協議するものとする。
27	<p>応札に当たり現場確認を希望する場合は、事前に担当者に電話連絡し、日程調整後に現場確認すること。</p> <p style="text-align: right;">連絡先048-722-1111: 担当: 用度担当 放射線技術部部長</p>

別紙

以下の要件を満たすこと。

1	X線透視撮影台	
	1-1	テーブル方式はオーバーチューブ方式であること。
	1-2	天板はフラットタイプで、大きさは77×220cm以上であること。
	1-3	水平静止時の許容質量は227kg以上であること。
	1-4	最低天板高は48cm以下であること。
	1-5	寝台の起倒動範囲は立位90° 以上、逆傾斜-90° 以上であること。
	1-6	映像系長手移動ストロークは158cm以上であること。
	1-7	映像系左右移動ストロークは22cm以上であること。
	1-8	天板端からの透視撮影範囲は、上端・下端ともに10cm以下であること。
	1-9	立位時の床面からの透視撮影範囲は27cm以下であること。
	1-10	X線管の頭尾方向に対する斜入角度は±35° 以上であること。
	1-11	SID可変機能を有すること。
	1-12	寝台底面にタッチセンサーを有すること。
	1-13	天板マット、ショルダーパット、ハンドグリップ、フットレストを有すること。
2	近接操作卓	
	2-1	検査室側に、近接操作卓を装備すること。
	2-2	可動式で近接操作が行え、遠隔操作卓と同等の機能を有すること。
	2-3	別置き của モニター台車を有し、19インチ程度の高輝度カラー液晶モニター2面を装備すること。
	2-4	近接操作卓で撮影画像参照操作、ROI任意可変操作が可能であること。機能を有さない場合は、無線式のマウスを装備し操作可能とすること。

3	高電圧発生装置	
	3-1	制御方式は、インバータ方式であること。
	3-2	最大定格出力は50kW以上であること。
	3-3	最大管電圧は150kV以上であること。
	3-4	最大管電流は800mA以上であること。
4	X線管装置	
	4-1	焦点サイズは0.4mm以下、0.7mm以下の2焦点サイズ以上を有すること
	4-2	最大陽極蓄積熱容量は600kHU以上であること
5	X線管可動絞り	
	5-1	絞りの開閉や照射野ランプの操作機能を有すること
	5-2	バーチャルコリメータを有すること
6	X線検出器	
	6-1	検出器は間接変換方式の平面半導体検出器(FPD)であること。
	6-2	有効視野サイズは最大42×42cm以上であること。
	6-3	視野切換は4段階以上、最小視野サイズは12×12cm以下であること。
	6-4	ピクセルサイズは透視・撮影共に最小160μm以下であること。
7	画像収集及び画像処理機能	
	7-1	透視方式は、波尾遮断機能付きパルス方式を有すること。

7-2	透視フレームレートは最大30fps以上とすること。
7-3	検査線量を最適化するためパルスレートは7段階以上の選択ができること。7段階以上の選択ができない場合、照射フレームレートの2倍のフレームレートで表示するフレームレート補間処理機能を有し、検査線量の最適化が可能であること。
7-4	背景部減衰処理機能を有すること。
7-5	散乱X線分布をリアルタイムにシミュレーション表示する散乱X線分布表示機能を有すること。画像処理装置で対応不可の場合は術者被ばくを目視化するためポケット線量計(MYDOSE mini:ALOKA)を3式備えること。
7-6	透視画像のラストイメージホールドが可能であること。
7-6	DSA機能を有すること。
7-7	撮影画像の自動階調補正、濃度・コントラスト調整、白黒反転、画像の回転、上下左右反転、距離計測、角度計測等の機能を有すること。
7-8	透視画像の左右上下反転機能を有すること。
7-9	ノイズ低減処理を有すること。
7-10	リアルタイム逐次近似処理を有すること。
7-11	検査室内のユニット数は透視撮影台を含まず2ユニット以内であること。
8	周辺機器との接続など
8-1	機構PACSとDICOM STORAGE接続を行うこと。
8-2	機構オーダリングシステムとDICOM MWM接続を行うこと。
8-3	DICOM RDSR、MPPSの出力に対応していること。
8-4	線量レポートが機構PACS等に送信可能なこと。
8-5	機構の被ばく管理線量システムに対応可能な出力であること。詳細は機構と相談すること。
8-6	ネットワーク接続については、導入施設側が納得する接続を行い、その費用は全て落札業者が負担すること。
9	透視録画システム
9-1	リアルタイム透視画像を専用録画システムに保存できること。透視録画システムは透視スイッチと連動して録画の開始/停止を行えること。

9-2	4系統以上の同時録画が可能であること。装置1式で困難な場合は装置を2式備え、記録データに検査日時を付帯すること。
9-3	録画システムは装置から患者の属性情報を取得すること。取得不可能な場合は、オーダーリングシステムやRISデータベースから患者の属性情報を取得可能であること。
9-4	録画システムのフォーマットはAVI、MPEG、MP4、TSの何れかの方式が可能であること。
9-5	動作認証済みの専用のモニターを1式用意すること。
9-6	外部出力インターフェイスとしてUSB(Type A)に出力可能であること。

10 付属品など

10-1	面積線量計を搭載すること。
10-2	既存の装置と同等のアプリケーションを導入し、接続環境を設定した読影環境一式を備えること。
10-3	透視と撮影が可能なフットスイッチを備えること。
10-4	泌尿器検査用の足(膝)受け、汚物排水ロートを備えること。
10-5	スタンド式の无影灯を一式備えること。
10-6	既存のアームを使用しX線防護シールドを備えること。
10-7	放射線防護として、防護ゴーグル5式(エックスガードゴーグル:昭和光学)を準備すること。
10-8	スタンド式ハンガー(PHF-10:保科製作所) 1式
10-9	ポケット線量計(MYDOSE mini:ALOKA) 2式
10-10	検査室内機材設置テーブル (横1800mm×奥600mm×高700mm) 2式
10-11	ステンレス 処置台 二段 (横800mm×奥400mm×高850mm:吉村医科器械 エコノミーワゴン) 2式
10-12	RIS端末設置机 プリンター設置可能 (横500mm×奥700mm×机面の高さ750mm)1式
10-13	スチール製本棚 (横900mm×奥600mm×高700mm)
10-14	パソコンデスク (横1200mm×奥800mm×高700mm)

	10-15	造影剤収納棚 シャッター錠付き（横900mm×奥400mm×高1600～1900mm）1式
	10-16	検査機材収納棚 引き出し（横500mm×奥450mm×高800mm）1式
	10-17	ポジショニングブロック 約300mm×600mm×520mm×幅500mm位のサイズの直角三角形1式
	10-18	防護エプロン(HAGOROMO WFA5 ワンダーライト0.25mmPb:マエダ)をLサイズ2式(フィットエプロン)、Mサイズ2式(フィットエプロン)
11	その他	
	11-1	修理・点検記録の詳細な内容を保管すること。必要時には報告書で提出すること。
	11-2	導入装置の円滑な立ち上げ、操作者のトレーニングのため教材資料を作成提出すること。
	11-3	始業（電源入）、患者登録、検査、画像転送、終業（電源切）のワークフローがわかる画像を含めた簡易マニュアルを作成すること。詳細は担当者に確認すること。
	11-4	10-3を用いて、導入後の操作説明を行うこと。日時については担当者と協議すること。
	11-5	当院の指定する透視装置とその関連物品は撤去すること